

笑顔のまちには福来る in 鷹島

まちの話題

Matsuura City Topics

鷹島肥前大橋開通1周年記念講演会&シンポジウム

鷹島肥前大橋開通1周年を記念した講演会とシンポジウム「笑顔のまちには福来る in 鷹島」を3月21日、鷹島スポーツ・文化交流センターで開催しました。

鷹島肥前大橋の架橋が観光など交流の起爆剤となり、大勢の来訪者を呼び込んでいる現状において、将来にわたり地域住民と協働したまちづくりを提唱することを目的としたものです。

講演会では、日本テレビ「笑点」でおなじみの落語家三遊亭好楽さんが「笑いと人生」と題して講演。ユーモアたっぷりの講演に会場は笑いに包まれていました。

パネルディスカッションでは、大分大学名誉教授の軸丸勇士先生



をコーディネーターに迎え、唐津観光協会、市内の観光協会、婦人会、青年団、鷹島中学校生徒代表など7人のパネリストが「未来へつながる夢の架け橋」をテーマに意見交換を行いました。

鷹島町青年団の松崎進市さんは「青年団員はそれぞれ仕事を持っていて人数も限られていますが、農協青年部、漁協青年部に呼び掛けて観光の向上に役に立つように協力していきたい」と話していました。

海外からの訪問団にも市の花ツバキをPR

第37回福島つばき祭り（松浦福島つばき会・福島町観光協会主催）が3月19日から21日までの3日間、福島武道館と武道館前お祭り広場で開催されました。

同祭りは、市の花「ツバキ」をPRしてまちおこしをしようと、毎年行われています。

今年は、福岡県久留米市で開かれた「2010 国際ツバキ会議・全国椿サミット久留米大会」に合わせて開催。



第37回福島つばき祭り

19日には、国際ツバキ協会の会員など12カ国から約90人も会場を訪れました。

同協会会員などは、歓迎セレモニーの後、つばき祭り会場でツバキの鉢植えをじっくり見たり、写真に収めたりしました。また、初崎公園内のヤブツバキ群生林、土谷棚田などを見学し、福島を満喫していました。



森田チヨさんが 100 歳

グループホームたけべで 100 歳祝い

森田チヨさん（今福・福德）が3月28日、入所中のグループホームたけべ（同町）で100歳の誕生日を迎えました。

森田さんは明治43年生まれで、子ども、孫、ひ孫が合わせて5人います。若いころから編み物や和裁が好きで、内職程度に着物を縫っていました。現在は、同施設内で工作などをして過ごしています。

この日は、同施設内で森田さんの100歳祝いが行われ、カラオケや森田さんの子どもの嫁の一枝さんが参加している今福長寿連合会民謡部の踊りも披露され、森田さんや入所者は楽しいひとときを過ごしました。



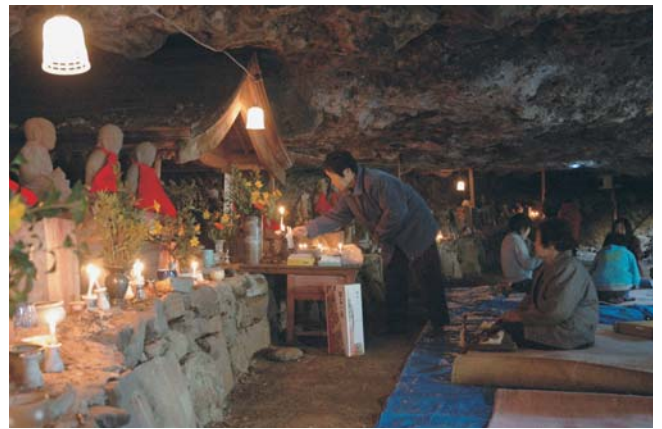
落谷の洞窟で彼岸行事

赤木地区のおこぼ様

志佐町赤木地区にある落合の洞窟^{おてや}で3月21日、無病息災を願う彼岸行事「おこぼ様」が行われました。

「おこぼ様」は「弘法様」がなまったものといわれ、同地区の彼岸行事として受け継がれています。洞窟は高さ約2尺、幅約30尺、奥行約10尺。入口には弘法大師が祭っており、奥には40体以上の地蔵が並んでいます。

この日は、ろうそくの明かりに照らされた洞窟に参拝者が訪れ、無病息災を祈願しました。



日ごろの感謝を込めて、合唱や吹奏楽を披露

松浦少年少女合唱団（八谷博子代表、21人）と御厨中学校吹奏楽部（川崎千代子顧問、8人）が3月27日、御厨公民館で「サンキューコンサート」を開催しました。

このコンサートは、同合唱団と同吹奏楽部が、日ごろの活動の成果の発表と、周囲の人への感謝を込めて2年前から開催しているものです。

松浦少年少女合唱団・御厨中学校吹奏楽部

コンサートは3部構成で、同合唱団が「三つの汽車のうた」、「このみち」、「Believe」などの合唱20曲と「ごんぎつね」のミュージカル劇を、同吹奏楽部が「宙船」^{そらふね}「遙か」^{はる}などの合奏3曲を披露。最後には観客も一緒に全員で「ふるさと」を合唱し、集まった約100人の観客からは、たくさんの拍手が送られていました。

